

ベトナム・ハナム省で振り返る日越の交流

兵庫県香港経済交流事務所 所長 山谷 公男

日越外交関係樹立 50 周年記念事業への出席

ベトナム北部のハノイに隣接するハナム省と兵庫県・神戸市は、2016年に「経済交流に関する共同声明」を締結し、さらにその翌年にはハナム省ドンバンⅢ工業団地とひょうご産業活性化センター・神戸市が、同工業団地への兵庫・神戸企業の入居に際する優遇措置適用の協定書を締結しています。以後、県内企業によるベトナムでの事業展開を両地域がサポートし、また訪問団を相互に派遣し合うなど、経済分野を中心に交流を積み重ねてきました。そのような中、今年5月14日に日越外交関係樹立 50周年を記念して開催された「2023年ハナム省文化観光推進ウィーク開幕式、日本・ベトナムの伝統芸能交流プログラム」へ出席する機会を得ました。そこで、現地では日越の交流がどのように振り返られたかをご紹介します。

狂言の公演と、その意味するところ

冒頭、日本から招待された出演者により狂言が演じられました。公演後、山田滝雄駐越大使は「多くのベトナムの方々には楽しんでいただけたのは、日越の笑いのツボに共通性があるためではないかと感じております。(中略)笑いの中に、共感、共鳴し合うものがあることが、日越関係の急速な発展の基礎となっているのではないのでしょうか」と挨拶されました。

近代以降の交流

続いて、近代以降の日越の交流が動画で振り返られました。日本語の字幕を、以下原文のまま引用します。「日越関係の最初の基盤を作り上げた人々は、ファンボーイチャウ指導者とファンチュチン愛国者でした。20世紀の当初にベトナムで起こった東遊運動と維新運動を通して、日越交流関係に関するベトナムの革命家のマインドセットが大きく変わってきました。歴史の歳月を経て1973年9月21日に日本とベトナムは本格的に外交関係が樹立しました。」(ママ)



会場は約1万人の観客で超満員となりました
(筆者撮影)

補足しますと、日露戦争がアジアの民族運動に影響を及ぼし、仏領インドシナでは1904年にファン＝ボーイ＝チャウらが独立等を目指す維新会を組織。日本へ渡りベトナムの青年に日本留学を勧める東遊運動を開始。この運動で日本に渡ったファン＝チュー＝チンは、慶應義塾から構想を得て、1907年にハノイで東京義塾を設立しました。

文化交流

次に、文化交流が語られます。同様に動画で流れた日本語の字幕を、以下原文のまま引用します。

「日越両国の文化は歴史上長い間お互いに影響を与えてきました。古代当時の林邑地（現ベトナム中部）から出身したファットリエットという僧侶は、8世紀半ばから日本雅楽の創始者として日本人から尊敬されてきました。ファットリエット僧侶は736年に日本にやって行きました。彼は奈良の大安寺でサンスクリット語を教えました。752年、彼は東大寺の大仏開眼祭でダンスを提供しました。このダンスは林邑音楽と名付けられ、日本の雅楽の中で重要な部分とされて、現在まで伝わっています。」(ママ)

補足しますと、736年に渡来した林邑（チャンパ王国、現在のフエ辺り）出身の僧・仏哲（ベトナム読み：ファット＝トリエツト）は林邑楽という舞楽を日本に伝え、752年の東大寺大仏開眼法要では三舞奉納され、雅楽の一部に組み込まれたと言い伝えられています。

経済交流

最後に、経済交流が語られます。動画で流れた日本語の字幕を、以下原文のまま引用します。

「ハナム省は、投資パートナーとして日本を最優先しており、省内の投資環境を改善し、企業とともに歩んで、約束した事項を便宜に実施し、投資家からの提案を耳に傾け、企業様と一緒に問題点解決するように取り組んでいます。同時に日系企業様のための高度人材を提供できるように教育訓練プログラムを展開し、省内の日本語教育センターなど開始している。」(ママ)

補足しますと、ハナム省は日本の投資家に対し、次の「10の約束」を設けています。

- ①24時間の電力供給の確保、②給電、給水、通信、排水、固形廃棄物処理に係わるインフラの整備、③申請手続きの最短化、3日以内に投資ライセンスの発給、オンラインによる税金申告、行政手続きの簡素化、④労働者訓練への支援、良質な労働者の提供、⑤労働者の社宅建設士の提供、⑥投資ライセンス変更や投資事業拡張の対し便宜を提供、⑦円滑な電子税関手続きの実施、⑧従業員の安全保障、⑨ストライキ・争議の発生の防止、⑩人民委員会へのホットライン設置及び投資家の要望を迅速解決。

手と手を取って未来へ世界へ

これは50周年事業で日本側実行委員会が目指しているテーマです。次の50年を視野に入れて、日越両国の関係が、互恵的で対等な立場で、未来へ、世界へ更に大きく飛躍するよう期待し、当事務所としてもその方向で関係機関等と連携して諸活動に取り組みます。

ひょうご海外ビジネスセンターは、兵庫県が世界3か所に設置する兵庫県海外事務所と連携して、県内企業の海外ビジネス展開を支援しています。
本通信は、各海外事務所から寄せられる現地トピックスをお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】

「兵庫県海外事務所通信」バックナンバー <https://www.hyogo-kaigai.jp/officenews/>